

大学と社会・産業界との幅広く、開かれた連携を目指して

北見工業大学

社会連携推進センター

北見工業大学は、従来から学外の皆さまと種々の形態で連携し、「地域連携・社会貢献」「共同研究推進・研究支援」を目的とし、産学官連携活動を推進しています。社会連携推進センターは、北見工業大学の産学官連携活動を通じた社会貢献を担うセンターとして、平成4年に設置されました。産学官連携を推進するすべての活動においてご活用ください。

インキュベーション機能

起業家育成、新規事業支援、創業支援などのインキュベーション機能を有しています。 入居企業

企業組合北見産学医協働センター (北見工業大学大学発ベンチャー企業)

(産学官連携支援機関バックアップ機能)

国や市が運営する産学官連携支援機関が入居しています。

入居機関 -

- ●オホーツク産学官融合センター
- オホーツク圏の産業振興を図るため、地域中小 企業の研究、事業化等を支援する様々な機能・組織 を融合させるワンストップサービス拠点です。
- 独立行政法人中小企業基盤整備機構 北海道本部 北見オフィス

オホーツク圏において中小機構基盤整備機構の 各種事業や専門家による経営相談事業などを 積極的に展開しています。

● 北海道知的財産情報センター北見サテライト 知的財産に関する相談窓口として、経済産業省 北海道経済産業局、北海道など7つの公的機関 が無料で相談に対応するセンターとして、北見 サテライトではテレビ会議システムを設置し、 相談を受け付けています。

共同研究推進機能

研究者 1人あたりの 共同研究 **0 5** 件/年 以上

研究者一人あたりの共同研究件数は全国の大学の中で 常に上位に位置しており、 積極的な共同研究を展開しています。

寒冷地工学の最先端技術それだけじゃない、北見工業大学

北見工業大学は、地域が生みだす未利用な資源を有効に活かす環境に優しい工学など、自然は調和するテクノロジーの発展を目指しています。その研究領域はナノレベルから地球規模にまで及び、地域社会はもとより世界の未来に貢献できる最先端の研究・開発を行っています。

国内最大級の設備







低温域材料・構造実験システム…寒冷地工学の拠点を目指す北見工業大学の象徴とも言うべき、代表的な実験装置です。マイナス50℃までの低温環境を再現します。寒冷地の自然環境とその下で発生する各種構造物の技術的課題を研究するための総合が験システムです。







産学官連携を推進するための制度 ご相談は無料で承ります。お問い合わせは center@crc.kitami-it.ac.jp まで

共同研究制度



共同研究とは?

パートナーが研究費を負担し、大学とパートナーの 研究者や技術者が協力して研究を行うものです。



共同研究のパートナー

本学のシーズ、研究成果を必要とする日本全国、 世界の研究者・研究機関等が対象です。

その他の制度

受託研究制度

パートナーが研究費を支払い、大学側のみで研究を行い、大学側から成果を報告するものです。

奨学寄附制度

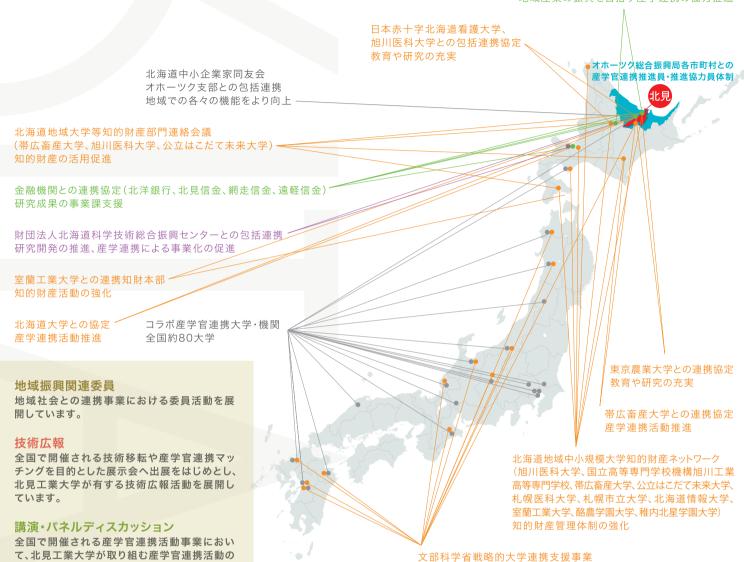
大学の研究・教育の助成を目的とし、皆さまに寄附金への ご協力をお願いしております。

社会貢献を担うセンターとして一

産・学・官、それぞれの強みを活かす連携を生み出し、地域・社会に必要な活動を進めます。

北見工業大学の産学官連携体制

日本政策金融公庫旭川支店との覚書締結 地域産業の振興を目指す産学連携の協力推進



北見市と北見工業大学の連携

北見市産学官連携推進協議会

紹介や、全国における産学官連携を推進する立

場での講演を実施しています。

北見地域での新産業創出や地場企業の販路拡大を推進することを目的とし、北見市、市内の経済団体、大学などが集まり設立した地域の産業振興推進組織

「スーパー連携大学院」全国14大学

オホーツク地域の行政並びに民間機関との共同研究、研究交流及び技術の指導・教育・開発等を推進することを目的とし、北見市が中心となり設立した社会連携推進センターの支援機関

国内有数の低温室

近隣地域や極域の極寒の環境をシミュレートする大型の低温室を備えています。



南極氷床深層掘削機の開発(低温室3)

深さ 2.5m のピットや載荷装置、クレーンなどを持 つ大型多機能施設

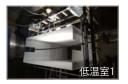
南極ドームふじ基地で使われた地球の気候変動を 解明するための氷床コア掘削機を開発

寒冷地橋梁構造の研究(低温室3)

寒冷地対応のゴム支持材料を研究

送電線着氷雪対策の研究(低温室1・2)

送電線への着氷雪防止・除去技術、碍子の絶縁破壊 防止技術を研究





マイナス50℃までの環境をシミュレートする低温室

原料から商品、パッケージまで

次産品の高付加価値化への挑戦を具現化するために必要な、各種プロセッサ、パッケージング機器をそろえています。



凍結乾燥機

食材を凍結させた状態で 水を気化し素早く乾燥さ せる装置



オートラベラー

円柱状のボトル類に効率 的にラベルを貼る装置



スプレードライヤー

液状の食材を噴霧し瞬間的に乾燥 させて微粉末を得る装置

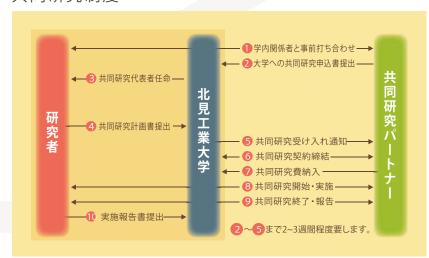


一次加工 オートクレーブ、ロータリーカッター など

高次加工 遠心分離機、スープフィニッシャー、微粉砕機、撹拌造粒機 など

パッケージ 真空包装機、自動計量装置など

共同研究制度



経費について

共同研究費

旅費、研究に必要な備品・消耗品費等および、大学側研究補助 者の人件費の総額です。パートナーと大学側研究代表者の双方 で協議して決定します。

研究者や技術者を派遣する場合の経費

民間機関等から研究者や技術者を派遣する場合には、年間1人当 たり42万円が必要です。パートナーと大学側研究代表者の双方で 協議して決定します。

- ●大学が研究費の一部を負担する場合もあります。
- ●研究費の支払いは年度ごとに必要ですが、契約は複数年にわた ることも可能です。
- ●研究に必要な直接的な経費と、その30%に相当する管理費を 納めていただきます。パートナーと大学側研究代表者の双方で 協議して決定します。